

事業番号

2023 - 金融 - 新24 - 0002

令和5年度行政事業レビューシート			(金融庁)				
事業名	過去の金融行政の知見の集積・活用に必要経費(非常勤職員手当)			担当部局	総合政策局	作成責任者	
事業開始年度	令和6年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総合政策課研究開発室	犬塚 誠也	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	—			関係する計画、通知等	2022事務年度金融行政方針 直面する課題を克服し、持続的な成長を支える金融システムの構築へ		
政策	横断的施策			主要経費	その他の事項経費		
施策	横断的施策-4 その他の横断的施策						
政策体系・評価書URL	https://www.fsa.go.jp/seisaku/						
事業の目的(5行程度以内)	過去の金融行政を担った職員からの当時の経験・知見を集約・公開することを通じて、金融行政を引き続き効果的・効率的に実施しつつ、将来的な課題にも能動的に対応することが出来るようにすること、また、広く国民一般に行政施策の背景・経緯等を明らかにすることを通じて、金融行政の透明性確保及び国民の理解の向上、研究機関における研究の促進等につなげることが出来るようにすること。						
現状・課題(5行程度以内)	金融庁発足から20年が経過し、この間、不良債権問題等の金融危機への対応、リーマンショック以降の世界的な金融安定化の取組み、東日本大震災や新型コロナによる事業者の事業継続に向けた支援、更には、市場構造の改革、低金利や少子高齢化等の構造的な課題への対応など、様々な行政施策が実施されてきた。こうした業務を担ったそれぞれの職員の経験・知見については、次なる危機や構造問題への対応、市場や経済の活性化策の検討など、今後の金融行政を効果的・効率的に実施していくために極めて重要であり、行政事務の内容に止まらず、職務遂行に当たって各担当者が認識していた課題・悩み・判断経過等と併せて文書化して後世に残すことで、類似の問題に止まらない様々な行政施策に幅広く活用することが可能となるが、現状、こうした文書化が行われておらず、時間が経つにつれて、過去の貴重な経験・知見が喪失されてしまっている状況。						
事業概要(5行程度以内)	過去に金融行政の主要な課題に対応した当事者(職員等)に対して、当時の政策環境、施策の背景・経緯、職務に当たっての悩み等を、インタビュー形式を基本として口述筆記・集積し、文書化・公表を行う「金融行政オーラルヒストリー」について、インタビューや文書化・知見共有に当たって必要となる文書管理等の基礎的な業務に充てるため、事務補佐員一人を採用・活用する。						
事業概要URL	—						
実施方法	直接実施						
補助率等	—						
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)	予算の状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
			/	/	/	/	/
			/	/	/	/	/
			/	/	/	/	/
			/	/	/	/	/
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	-	1
		執行額(G)	-	-	-	-	/
執行率(%) =(G)/(F)	-	-	-	-	/		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	-	-	-	-	/		
令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	金融政策費			令和6年度新規要求事業のため。		
	(目)	非常勤職員手当		1			
		その他	-				
	計(A)	-	1				

活動内容① (アクティビティ)		過去の金融行政を担った当事者(職員等)に対して、当時の政策環境、施策の背景・経緯、職務に当たっての悩み等に関するインタビューを実施する。									
↓											
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		インタビュー結果の作成・公表	インタビュー結果の作成・公表 件数	活動実績						1	
				当初見込み							
↓ 成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		インタビュー結果の作成・公表件数が増加すれば、短期的には、当該結果へアクセスする件数が増加し、金融行政の透明性確保及び国民の理解向上、研究機関における研究の促進に繋がる。									
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7 年度		
		金融行政の透明性確保及び国民の理 解の向上、研究機関における研究の促 進につなげること	インタビュー結果の公表ペー ジへのアクセス件数	成果実績							
				目標値					500		
				達成度	%	-	-	-			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績											
↓ 成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)		インタビュー結果の作成・公表件数が増加し、研究機関による金融行政対応等に係る研究が進めば、長期的には、将来の類似の事案等が発生した場合に金融行政上の対応を検討する際の参考とすることができ、適切な行政対応に繋がる。									
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 年度		
		インタビュー結果を将来的な金融行政 上の対応等を検討する際の参考とする ことで、適切な行政対応に繋げること	-	成果実績							
				目標値							
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績											
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
		インタビュー内容と類似の事案等とは金融危機の発生など決して望ましいものではなく、類似事案等の発生を前提とした活用は定量的な評価になじまないため。									
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等		名称									
		URL									
		該当箇所									
事業所管部局による点検・改善											
点検結果										目標年度における効果測定に関する評価(令和8年度実施)	
改善の 方向性											

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
非常勤職員手当	インタビューの実施及び結果の作成・公表に係る業務	1			
計		1	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック